

いつになく早い冬の訪れかと思いきや、巷では手足口病やヘルパンギーナなどいわゆる夏風邪がまだ流行しています。かと思えば初冬のRSウイルス感染症が少しずつ増えてきたり、真冬のインフルエンザがパラパラと出てきたりなど、病気の季節感の混乱はどこまで行くのでしょうか。

人が病気になるとき、前もって予防できることがあるとしたら、こんなにうれしいことはありません。

胃がんの原因にピロリ菌が関与していることが分かり、早い時期にピロリ菌を体内から除去することができれば、胃がんにはならない。こんな事実から、中学生でのピロリ菌健診が始まりました。ピロリ菌の陽性はそれほど多いわけではありませんが、除菌ができれば子どもたちの胃がんのリスクはほぼ0となります。中学生ばかりでなく成人のピロリ菌健診が一部の自治体で始まっています。辛い胃カメラの前にリスクを判断できれば、検査の重荷も少しは緩和されるでしょう。

B型肝炎ウイルスが体の中に入って、肝硬変や肝がんにならないようにとワクチンが始まりました。世界初のがん予防ワクチンなのですが、対象者以外の人々の接種率はなかなか上がりません。

水痘のワクチンが始まって、市中での水痘感染はほぼ0となりました。これは、将来的には帯状疱疹で苦しむ人がほとんどいなくなることを物語っています。

その昔、隣の子が水痘やおたふくかぜになったら、自分の子を連れて行って罹ってしまえなどの恐ろしいことが平気で行われていました。水痘のあとの脳炎で亡くなったり、おたふくかぜで耳が聞こえなくなったりした子がいたはずなのに、そんなことはだれも聞かされませんでした。

予防接種のことなんて何にも知らない医師が予防接種反対論の本を出して商売にする国です。言論の自由とはいえ、正しい情報はどこにあるのか。そのことをどう伝えていくのか？皆さんもメディアからの情報を上手に活用して自分の健康に気を使ってください。騙されても後戻りはできませんよ。